

科目名 Class	入学年度 Admission Year	開講学年・学期 School Year, Semester	単位数 Credit	必・選	授業担当者 Instructor
知的所有権	共通	3・4年生・前期	2単位	選択	後藤道子
履修の前提条件	法学入門を履修していることが望ましい。				
授業概要 (Course Outline)					
知的財産とは、人間の知的な創造活動によって生み出された発明や著作物などの成果のことをいい、知的財産権(=知的所有権)とはそれら成果に対する権利の総称です。おもに著作権と産業財産権(特許権、実用思案権、意匠権、商標権)があります。今日、デジタル化、ネットワーク化の進展に伴い、これらを法的に保護する知的財産制度に関する理解の重要性が高まっています。この講義では、知的財産権に関して基礎的な知識を学び、知的財産の創造、保護及び活用に関する問題やネットワーク上でのコンテンツの利用等に関する問題に対応する力を養います。					
授業を通して修得できる力 (Competency Goals)					
知識・理解の観点 Knowledge and Understanding	多文化・異文化に関する知識の理解 Multiple Culture / Different Culture	○			
	人類の文化・社会と自然に関する知識の理解 Human Culture / Society / Nature	○			
汎用的技能の観点 Generic Skills	コミュニケーション・スキル Reading / Writing / Speaking / Listening				
	数量的スキル Mathematics				
	情報リテラシー Information Literacy	○			
	論理的思考力 Logical Thinking / Creative Thinking	○			
	問題解決力 Problem Solving	○			
態度・志向性の観点 Personal Qualities	建学の精神 University Founding Philosophy				
	自己管理能力 Self-management	○			
	チームワーク Teamwork				
	リーダーシップ leadership				
	倫理観 Ethical Sense	○			
	市民としての社会的責任 Social Responsibility	○			
	生涯学習力 Lifelong Learning	○			
到達目標 (Objectives)					
知的財産には技術的アイデア、ブランドマーク、物品のデザイン、音楽・アニメなどが含まれます。これら知的財産権(=知的所有権)に関する基礎的な知識を理解し、最新のニュースや実際の裁判事例などについて内容を分析し問題点を見つけ出すことによって多角的な視点から問題を考察できるようになること。					
事前学習の内容	各講義内容のキーワードの意味を調べておくこと				
事後学習の内容	配布プリントを通読し復習すること				
能動的学習【アクティブラーニング】の内容 (Active Learning)					
毎回必ずコメントカードの作成・提出をお願いします。講義内容について質問、感想、要望等を自由に記入してください。質問については次回の講義で答えるようにします。積極的な質問を期待します。					
教員との連絡方法・オフィスアワー (Office Hour)					
いつでもメールで問い合わせてください。gotomichiko2@gmail.com					
その他 (Others)・外部試験との関連・学習の確認(ポートフォリオの作成と提出)について					

授業計画 (Course Schedule)			
テーマ Theme			
第1回	知的財産権(=知的所有権)の概要 産業財産権と著作権の違い等		
第2回	物品のデザインやGUIを保護する意匠法1 意匠権とは何か?		
第3回	物品のデザインやGUIを保護する意匠法2 意匠登録要件、効力、侵害行為(裁判例)など		
第4回	ロゴやブランドマークを保護する商標法1 商標権とは何か? 商標権とブランドマネジメント		
第5回	ロゴやブランドマークを保護する商標法2 商標登録要件、効力、侵害行為(裁判例)など		
第6回	小説、音楽、ゲーム、映画などを保護する著作権法 著作物(保護されるもの)とは何か?		
第7回	著作権の発生と保護期間(意匠権・商標権など産業財産権との違い)		
第8回	著作者と著作権者—権利を持つ者は誰か?(産業財産権の権利者との違い)		
第9回	権利の内容 著作者が持つ権利(著作財産権、著作者人格権)		
第10回	俳優など実演家、レコード製作者、TV局など放送事業者を保護する著作隣接権		
第11回	著作物の利用と権利制限規定(著作物を自由に利用できる場合)		
第12回	著作権侵害—民事的救済と罰則など		
第13回	他人の作品を利用して新たな作品を創作した場合について ケーススタディ1) 著作権侵害になる場合 ケーススタディ2) 著作権侵害にならない場合		
第14回	肖像権、パブリシティの権利など「表現行為」に関するその他の法的問題		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
教科書 (Textbooks)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
一部テキストは講義において配布します。			
参考文献 (Reference Books)			
書名 Title	著者名 Author	出版社 Publisher	ISBNコード ISBN Code
講義において適宜紹介します。			
成績評価方法 (Grading Criteria / Method of Evaluation)			
講義への参加30%、レポート35%、定期試験35%の3つを必須とし、総合的に評価します。			